

## 可能性を狭めていたのは 実は自分自身だった

初めに、簡単な実験をしてみましょう。人さし指を立て、頭上でヘリコプターの翼が旋回しているように、時計回り（右回り）に回転させます。次に指を上を立てたまま、腰のあたりまで持ってきます。するとどうでしょう、人さし指の回る方向がいつの間にか、反時計回り（左回り）に変わっていませんか。

自分では指の回し方を変えていないのに、方向が逆になってしまう不思議な現象。種明かしをすれば簡単なことで、最初は回転を見上げていたから時計回りに見え、次は同じ動きを見下ろしたから反時計回りに見えただけなのですが、「同じものでも視点を変えれば逆

に見える」ことが、この実験から分かります。

「ものの見方コンサルタント」の川村透さんは、こうした楽しい実験やクイズを交えながら、ものの見方を変えることでその後の人生が変わることを、著書や講演などで語ってきました。その根底には、自信が持てなかった自分を大きく変えた、川村さん自身の体験がありました。

「幼い頃から吃音に悩んでいた僕は、引つ込み思案でいつも目立たない存在でした。大学を出て就職しても、電話の応対がうまくできなかったりして、いつしか出世もあきらめていました。そんな僕が二十九歳のとき、初めて『自分の可能性にチャレンジしたい』と、会社を辞めたんです」

アルバイトで生計を立てながら将来を模索

## 現実の問題ではない どう解釈するかだ

ものの見方コンサルタント

川村 透さん



かわむら・とおる

昭和40年東京都生まれ。上智大学経済学部経営学科卒業後、外資系コンサルティング会社に就職。29歳で退社後、3年間アルバイト生活が続ける。アメリカで出会った本の翻訳を機に翻訳家、作家、講演家として活躍中。著書に『答えはいつも、自分の枠の外にある!』『なぜ、逃げた犬は追ってはいけぬのか』、訳書に『こんな時代でも伸び続ける「営業マンの秘訣」』などがある。http://www.tkoffice.com/

その後、作家としても活躍するようになり、多くの翻訳書とともに自らの著書を執筆してきました。一方で、「ものの見方」をテーマに、講演活動にも精力的に取り組んでいます。

「最初に講演の依頼があったときは、何を話せばいいのか悩みました。正直、吃音の不安もありました。そこで、そうした自分のコンプレックス自体を話そうと思いました。吃音であることを他人に知られるのが嫌で、人目を含ませることもできなかった自分。そんな経験を話せば、そこから勇気を受け取ってくれる人がいるのでは、と思ったんです」

講演は大成。川村さんは、「ハンディだと思っていた吃音が、実は自分の個性だった」こ

とに初めて気付きます。不思議なことに、特別訓練したわけでもないのに吃音はどんどん目立たなくなり、今ではほぼ支障なく話せるそうです。その後も講演の依頼は続き、「現実には変えられなくても見方は変えられる」という川村さんの言葉は、仕事や人生に悩む多くの人に勇気とヒントを与えています。

さて、現実の見方を変えるには、毎日の暮らしの中で少しずつ、そうした作業を積み重ねることが大事だと、川村さんは言います。

「うちは共働きなので、私が毎朝、三歳の子どもを自転車で保育園に連れて行っているんですが、住んでいるところは坂が多く、自転車をこぐのは大変です。でも、これも筋トレ

していた川村さんは、やがて旅先のアメリカで一冊の本に出会います。そこに書かれていた「現実には問題ではない。問題はものの見方だ」というフレーズに「ハッとさせられた」といいます。

「それまでの僕は、現実には『いいこと』が起きることばかり期待していました。でも、本当に大事なものは、目の前にある現実を自分がどう解釈し、行動するかなんですよ」

本の内容に感動した川村さんは、ぜひ日本

でも出版したいと、著者に日本語訳の許可を

もらい、帰国して出版社を回り始めます。英

語は堪能な川村さんでしたが、翻訳の経験は

ゼロ。二十社から出版を断られ、二十一社目

でようやく企画が通ったそうです。

「何社も断られると、『やっぱり自分には無理だ。そんなことができる人間じゃない』とい

う思いがわいてきます。でも、あきらめない

で続けたからこそ、二十一社目で出版にこぎつ

けることができたんです。『僕はこれまで自分

で自分の可能性を小さくして、人生をつまら

ないものにしていったんだな』と、そのとき強く

思いました」

普段と違う行動をとると

違ったものが見えてくる

こうして世に出た『人の力を借りれば、もっ

とうまくゆく』で翻訳家となった川村さん。

の時間だと思えばいい。忙しくて、ジムに通う時間もとれませんか、一石二鳥です」

他人から見ても大変な状況でも、目の前の現実にはどのような意味づけをするかはその人の自由。想像力を働かせて、次々と変わる現実には「いい意味づけ」をしていけば、人の意見に振り回されることはなくなり、それが人生をいい方向に変える原動力にもなっていくというのです。

「とはいえ、ものの見方を変えたいというのは、最初は難しいかもしれません。そんなときの手っ取り早い方法は、いつもと違うことをやってみることです。見たことのないテレビ番組を見る、行ったことのない店で買い物をするなど、普段と違う行動をとると、ちよつと違ったものが見えてきますよ」

そして「ありのままの自分」をいかに活用するかが、一番大切だと言います。

「自信を持ちたいからと、人はとかく資格取得などで、自分に『鎧』を着せることを考えがちです。でも、そんなふうに鎧を着けなくても、ただ『ものの見方』というスイッチを切り替えるだけで、いろいろな現実が見えてくるものなんです。見方が変わるとチャンスが増えます。自分にも輝ける可能性が広がっていると、気付くことができます。まさに『見方を変えると生き方が変わる』んですね」